

# 総務文教常任委員会活動レポート

開催日：令和5年5月29日(月)

開催場所：1・2号委員会室

## 総務部

### 1. 町有財産の管理について

利活用基本方針策定の目的として、本町の財政状況は、町の発展とともに整備を進めてきた各種公共施設等の老朽化による更新時期をむかえ、ここ数年、大規模な改築・整備事業が続いている状況にあり、町の借入金（町債）の返済額である公債費の残高も増加に転じている。未利用財産の管理・処分における現状と課題を明確にし、その利活用（処分）について基本的な考え方を定めるとともに、広く町民に明らかにすることで、町民共有の財産の適正な管理と公平、公正で透明性のある利活用（処分）の推進について定めるものとする報告がありました。

### 2. ふるさと応援制度推進事業について

令和4年度のふるさと納税申込寄附件数は、7,126件で前年比104.3%、寄附金額は1億2,110万9,500円で前年比104%と確定しました。申込件数上位返礼品は全体の7割以上が牛乳・乳製品であり、基幹産業を柱として認知度を上げ、全体的なボトムアップを図る必要があると考えています。

令和5年度は、ふるさと納税推進業務を効率的かつ有効的に行うことを目的として、公募型プロポーザル方式により受託事業者を選定し中間事業者の見直しを行います。

#### 【主な質疑】

委員：中間事業者の募集に申し込みのあった7社の内訳は？

担当：道内2社、東京4社、大阪1の合わせて7社です。

委員：推進業務概要の中に寄附者等対応業務とは？

担当：寄附者からの問い合わせに対するコールセンター業務が中心です。

委員：宮城県白石市への視察では、ふるさと納税利用者の多い女性の目線からの情報を取り入れているとのことでした。女性にポイントを絞り分析を行うのは難しいとは思いますが、ターゲットを絞ることなどは考えていますか？

担当：寄附者の情報分析は大切だと認識しています。中間事業者の業務の一部で民間の知見を借りて、効率の良いプロモーションのあり方を進めます。

引き続き、5月に総務文教常任委員会で視察した宮城県白石市での「ふるさと納税」の実態を踏まえ意見交換を行いました。

委員：白石市は返礼品の約9割がアイスクリームで、海産物を主要返礼品にしていな  
いことなど本町と共通する部分が多いため視察地に選定しました。

費用対効果を重視した寄附サイトの運用、寄附者の属性として大半を占める30  
代～50代の女性をターゲットとしたオンラインの広告戦略、物価高騰に対する  
新たな返礼品作りなど、中間事業者からのトレンド情報を得ながら事業展開を  
図っています。特筆すべきことは、職員と返礼品事業者の密接な関係が挙げら  
れます。市として設備投資や新商品開発のための金銭的な支援は行っていま  
せんが、返礼品のブラッシュアップに職員の消費者目線での意見が反映され、寄  
附額増に繋がった返礼品事業者が、独自に企業努力をして増産体制等を充実さ  
せています。

担当：ふるさと納税へのスタンスは本町も同じで、歳入確保の手段であることと、事  
業者が全国に販路を拡大することで中標津の知名度向上にも繋がり、また、成  
果が上がる切り口は色々あると思っています。中間事業者がどの業者に決定し  
ても丸投げするつもりはないので、新しい中間事業者としっかり連携しながら  
進めます。

## その他 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について

令和4年3月1日から令和8年3月31日までの計画期間で策定された、人口減少  
に対応した重点政策の令和4年度実績と効果検証についての報告を受けました。

### 【主な質疑】

委員：19歳から24歳の男性の転入が多く女性が少ない、女性の転出が多いと出てい  
ます。どのように分析されていますか？

担当：15歳から19歳の男女とも進学が転出の理由と考えられ、女性に比べ男性の転  
入数が多い理由は分析中です。ない、昨年の転入出のアンケートでは理由の7  
割が就業・転職の雇用に関する部分が多くありました。今年は大学3年生や専  
門学校生に町の雇用状況をまとめた冊子を送りアンケートも同封しますが、そ  
の項目も調査に入れることで検討します。

委員：25歳から29歳で、石狩から中標津への転入が20名前後います。Uターンで  
戻って来たのか等の分析は進めていますか？

担当：アンケートの中で元町民であったかの質問をしていますので、すぐに分析はで  
きませんが、回答数が揃うと分析が出来ると思います。